

発行所 東京都文京区大塚町  
2-1-6 桜蔭会館内  
社団法人 大学婦人協会  
電話大塚 (941) 9210  
編集兼 国田百合子  
発行日 昭和41年11月20日  
(第64号)

# J A U W

## おもな記事

- 1面 国際理解と親善への糸口
- 2面 企画部報告 支部だより
- 3面 ジャヤコデイ夫人滞在記、新入会員
- 4面 前号よりの支部だより

## 「国際理解と親善への糸口」

J A U W静岡支部会員

静岡新聞社々員 村田 静枝

ニューヨークに着いて三日、思いもかけずA・A・U・W宛に氏家寿子会長の紹介状が副社長からの通信の中から飛び出したとき、のよるこび、私を助けよう、何かの役に立つよう、と此処まで追いかけて下さった御厚意は最早、神に近い恩師、大石先生、森静岡支部長、大石幹事に心から感謝しました。

私の使命は故郷富峰翁の著書「時務一家言」の英訳をハワイに住む翻訳者と共に静岡新聞大石光之助社長の代理としてマクミラン社で出版交渉するという光榮あるものでした。ところが出版界はコマリシヤイルで非常にコンサーバティブでノーの一語、はじめから困難に直面しました。大石社長は蘇峰翁の薫陶をうけた一番弟子、四十年前マク社で発行した「日米関係」の姉妹篇であるこの本を同じ社から出版したい、と報恩の心に燃えた強い意志を持っています。がこの心は理解されず、加えて難解な翁の文が、飛び読みでわかつたうはすもなやや成功しかけたにもかかわらず三日目の試みも空しく帰国しました。

しかし静岡で私を待っていたのは何とA・A・U・Wのエクスキューティブ・セクレタリー、ミス・バトリックからの手紙で、それは私の意志を受け継いだ、とあるではありませんか、失敬したのあなた、の言葉、私はその原稿をマク社に持ってゆきあなたを助けよう、と決心しました。同社にいる我々のメンバーが近くアフリカから帰ってくるのを待つ、我々は再提案を開始しました。

この地の大学婦人協会は会員五百名、会長ヒース、ロップ博士やミス・パトリックは困難な私の仕事に紹介状や問合わせの電話をかけ側面協力をして下さったばかりでなく、特別のミーンテングを市内見物や食事、観劇などにもやると意気消沈の私をつれだしてくれました。



以来、メンバー達の間に、日本熱が高まりました。熱心な愛国者であり最も日本の精神を身につけた蘇峰翁の本をおして理解を深めてゆくことが出来る、と、それこそ本当の国際親善でなく何でしようか。

私はA・A・U・W事務所、原稿のコピーを送りました。序文は日本語で有名なハーバード博士、ロップ博士、ボート博士、ハワード博士、博士に依頼中です。両国の心が理解され、出版にこぎつけるまでこの仕事を続けます。

八月の下旬三日間労働省(1) 家庭部会のテーマは、主権による婦人の地位に関家庭の変貌と婦人の立場とする委員会が開催された。家庭生活の社会化について、大学婦人協会婦人の地位委員として会長よりの指名により出席した。その趣旨は、婦人参政二十年記念事業としてわが国婦人の地位をめぐる諸問題を研究討議することであった。この構成メンバーは、川島武宣博士外五名の民間有識者と婦人団体および労働者からの民間諸団体約二十名に、全員参加による三つの部会別研究会であった。

八月の下旬三日間労働省(1) 家庭部会のテーマは、主権による婦人の地位に関家庭の変貌と婦人の立場とする委員会が開催された。家庭生活の社会化について、大学婦人協会婦人の地位委員として会長よりの指名により出席した。その趣旨は、婦人参政二十年記念事業としてわが国婦人の地位をめぐる諸問題を研究討議することであった。この構成メンバーは、川島武宣博士外五名の民間有識者と婦人団体および労働者からの民間諸団体約二十名に、全員参加による三つの部会別研究会であった。

きかない。そのため成人教育をさかんにし、男女共進を促す努力を必要とする時代がきていることが主張された。

(2) 職業部会のテーマは、婦人の生活周期の変化と経済活動および農業における婦人の就業について討議された。その問題点として、中高年婦人の就業、若年女子労働の職業訓練、家庭責任をもつ婦人の方策にであった。この部会において、わたくしは、大学婦人協会の目的と事業、社会活動をするための昭和三十九年四四年の三回の三回にわたる家庭婦人の社会的活動に関する実地調査の報告を行い、大学教育をうけた者の社会福祉活動の参加への意義を明らかにし、協会発行のボランティア活動入門書の紹介をお知らせする。

裏もつ ライオン坐せり 夏海(ベニスにて) ベルギーの 煙製うなぎ 土用の日 夏山路 牛来てよぎる バス行手 船頭の 靴皆白き ベニスかな 雲海か スカンディナビア ちらほらす 以上 一九六六年九月二十七日 神戸支部 森本周子 記

人口とは即ち、出生率から死亡率を引いた人間の数である。世界の人口は紀元の昔から次第に増加して来たが、これは生物の世界では極く自然なことである。然し未開時代、或は文明の低い頃は、弱肉強食の習慣、天変地異(洪水、飢饉含む)疫病の流行などにより大量の死亡があったので、文明の維持、子孫の繁栄の為に大家族制は自然必要となった。従って国の政府、或は種々の宗教は家庭を大切に、母親の権利を保護する政策をとったのは世界中に見られる傾向であつた。

ところが十八世紀の中頃にヨーロッパに起り次第に世界に広まっていった産業革命は農工商各業に一大変革をもたらした。教育の普及と科学の長足の進歩は人の生活を工業化、都市化現代化していった。一方医学の進歩とともに死亡率は下り、必然的に殖える人口は、結婚年齢をおくらせること、産児制限によって調節されるようになった。婦人も単に母親としての生活だけでなく、新しい婦人の使命に目覚め活動するようになった。此のようにして

て、歐洲諸国、アメリカ合衆国及びそれらに準ずる国は文明の力により自国の人口を抑制する状態に達し、一応人口問題を解決したと見てよいのである。ところが未開発国と呼ばれるアフリカの大部分、日本を除くアジアとアルゼンチンを除く南米諸国では未だ此の問題は解決されてない。此の地方に年々殖える人口は今や世界の頭痛の種である。死亡率の低下により、たとえ出生率を現状維持しても人口の増大は免れない状態で、その筋の専門家の長期予測によれば、

此の儘で放置すれば今世紀の終りには世界人口は飽和の域に達し、大飢饉が起るとのことである。現にこれら未開発国の諸処で地域的に大飢饉が起っている。此の状態から世界を救う為に早急になさねばならぬことは、科学のあらゆる知識を集めて未開発国の食糧増産を出来るだけ早く実現し、一方ではやはり進んだ現代科学の力で産児制限の足を上げることにである。そしてその実現には非共要求されるのは、その国々の政府の自覚、及び結婚当事者達の自覚である。

国連機関を中心に世界中が今この目的の為に動き始めている。「セイロンの奇跡」が他の国々にも起ることを期待しよう。

九月十三日 セイロンなので、書いて来た大きな地元の留学生ジャヤコデイさんを迎えて、ユネスコ会館で、なごやかなひとときを過ごしました。まず日本に来た経験から、今後、団体旅行の事に親切的に話して貰って、小さい子供さん二人を故国において、ジャヤコデイさんを、就中、蛋白の研究に打ち込まれ、大学さんの希望される神戸港見打込まれ、かたわら、大学の協会の会員よりかわるがわる日本語を教わっておられる由でした。セイロンでは、小学校から大学迄授業料不要と聞きびっくり致しました。人口の九十パーセントが仏教信者で日本の仏教とは比べものにならない程、盛んで信仰深いとも話されました。矢張、女性の第一の関心は洋服地にあるので、大いに張切っておられたので、早く、早速、絹物の店に入って買物をされました。東京よりも喜んでおられ、部長以下一同祈った事で、我が意を得たりと思われ、日本がよい(特に神戸)と思えたのは幸いでし

た。日本人は店員も親切でサービスが行き届いています。外貨を投じて、おみやげなどで荷物をふくらませる必要は、さらさらないと痛感した次第です。二十七日間の紀行文を書くのは、紙面の都合上、許されませんが、お手な俳句を少しばかりお目にかけて終りにさせていただきます。

プラタナス ゲーテの 像の 涼しげに ゴンドラや 眠けをき そう 夏の宵 オリーブの 葉の白さ かな ひるさがり 日盛りの パラソルパイン(傘松) 影小さく アルハルハ 牧草と聞く 夏の旅

P.S. ロンドンでの春来日された英国の大学婦人協会員スミスさんに、半日、市内を案内していただき、大変、親切にして下さった事を申し上げます。

ことしもまた、十月一日から十二月三十一日まで、全国的に赤い羽根共同募金運動がおこなわれております。私たちがこのたすけあい運動に協力いたしましょう。



トイバー女史の講演より  
国際第一委員会  
前田のぶ

トイバー女史の講演より  
国際第一委員会  
前田のぶ

## 婦人の地位に関する委員会報告

植山 つる

八月の下旬三日間労働省(1) 家庭部会のテーマは、主権による婦人の地位に関家庭の変貌と婦人の立場とする委員会が開催された。家庭生活の社会化について、大学婦人協会婦人の地位委員として会長よりの指名により出席した。その趣旨は、婦人参政二十年記念事業としてわが国婦人の地位をめぐる諸問題を研究討議することであった。この構成メンバーは、川島武宣博士外五名の民間有識者と婦人団体および労働者からの民間諸団体約二十名に、全員参加による三つの部会別研究会であった。

きかない。そのため成人教育をさかんにし、男女共進を促す努力を必要とする時代がきていることが主張された。

(2) 職業部会のテーマは、婦人の生活周期の変化と経済活動および農業における婦人の就業について討議された。その問題点として、中高年婦人の就業、若年女子労働の職業訓練、家庭責任をもつ婦人の方策にであった。この部会において、わたくしは、大学婦人協会の目的と事業、社会活動をするための昭和三十九年四四年の三回の三回にわたる家庭婦人の社会的活動に関する実地調査の報告を行い、大学教育をうけた者の社会福祉活動の参加への意義を明らかにし、協会発行のボランティア活動入門書の紹介をお知らせする。

裏もつ ライオン坐せり 夏海(ベニスにて) ベルギーの 煙製うなぎ 土用の日 夏山路 牛来てよぎる バス行手 船頭の 靴皆白き ベニスかな 雲海か スカンディナビア ちらほらす 以上 一九六六年九月二十七日 神戸支部 森本周子 記

トイバー女史の講演より  
国際第一委員会  
前田のぶ



ジャヤコデイ夫人滞在記

京都で夫人とともに

京都支部

九月八日夕刻太平洋洋術... 会議の一行と入絡された...



結成式当日写真

九月十日、早朝より京大... 食糧科学研究所を訪ね、...

今年は大東協創設... 二十周年という記念の年で...

ウデンガーを歓迎... ドクター・ミセス・スタ...

- 新入会員
八月 佐藤 公子
九月 池田 幸子
十月 高田 千枝子
十一月 吉井登美代
十二月 吉井登美代

この婦人団体が、出身大... 学を越えて横のつながり...

今年度の仕事として、社... 業の一部門としてうちた...

社会福祉委員会報告... 今年度の仕事として、社...

- 東支支部
二月 津田 登子
三月 津田 登子
四月 津田 登子
五月 津田 登子
六月 津田 登子

お知らせ

「Enough for everyone The application of technology to world problems」及び「The Woman Professional Engineer」をテーマとする学会が、一九六七年七月一日から九日まで、英国のケンブリッジで開催されます。出席希望者には、審査の上、旅費の全部、又は一部が支給されます。応募切は本年十二月三十一日、

「家族計画」及び「産児制限」について、看護婦及び助産婦を対象とする講習が、ニューヨークの州立大学で開かれております。期間は三ヶ月、年に三回あります。以上、くわしいことは左記宛にお問合せ下さい。 国外奨学委員長 中野 静 東京都杉並区善福寺 一丁目21の6 (電)三九〇一六三三〇

教育委員会報告

委員長 辻 キヨ

教育委員会は一九六四年度に婦人の再教育について外国の文献資料を収集整理し、一九六五年度度内の調査にふみきり調査表三千部を高専教育を受けた婦人部にばり、その結果をまとめあげた。しかし印刷費の不足のため、あしむみ状態にあり、一九六六年度には必ず、印刷するための準備中である。 調査のまとめにあたられた委員の並ならぬ努力を考へ一日も早く出版出来ることを願っている次第である。

企画委員長変更

新委員長 村井 孝子 旧委員長 武藤 静子

武藤氏は、セイロンからの留学生ジャヤコディ夫入の直接の指導主任として、勉学面に全力を注いでおられるので、七月より村井氏にご出馬願うこととなった。

昭和三十九年度 事業報告

あなたの疑問は直ちに解決します あなたの知識はさらに広がります

過去三千年にわたる西欧の意志を強制した権力、軍閥の結晶、即ち科学、文藝、哲学、宗教など幾世紀を経て人類の宝として残された偉大な人々の作品(ホーマーからフロイドまで七十四人の四三三作品)を五十一巻に収録した「グレートブックス」は、複雑な社会のトピコンは、複雑な社会の職業専門化して来た現代こそ、心の糧として相互の理解を深めるために欠くこと出来ない人間の知識の泉で索引できる「グレートブックス」(二巻) シントピコン

言葉の分野における辞書、事物の分野における百科辞典ではありません。一〇人の学者が八年の歳月と数百万ドルの費用をかけて完成したもので、四三三作品が、シントピコンにより時間の浪費を解決した思想の分野における新しい解説書、大知識集にもなっているわけですね。天使、風習、勇気、愛情、人間、教育、世界などのグレートブックス(一〇二の基礎分類)をさらに、二九八七の思想、概念、一般的な論文に用いられている語などの論題に細分されておられ、あらゆる作品を読みむらに、これらの論題を容易に探し出すことが出来ます。一切論議することなく全ての論点を提起するだけです。著者の意見の正否には触れず、単にその道標の役をするだけ。あなたは常に歴史上の卓越した知識人達の教智に直接触れることが出来ます。あなた自身の判断を引き出し、思索を磨く上に大きな役割を果たしてくれます。

座右において簡単に、手軽に役立つ生涯の蔵書として、あなたも、お子様も、次の時代に生れ方々にも必要な教育書となります。人間の品性と知性は、豊かな知識によって育成されます。そして世界の人々が希求している平和も、人間

昭和三十九年度 事業報告

63号より続き

神奈川支部 小山ひで、四十一年六月、当支部再興の会を開いた。本部より役員出席。(会員現在六十二名) 二、支部会開催 I F U W 総会に出席した今非常美枝、小林正枝両代表より総会の報告。「新中」のスライドの公開、会員の懇談。 三、講演会開催 「職業専門化して来た現代こそ、心の糧として相互の理解を深めるために欠くこと出来ない人間の知識の泉で索引できる」グレートブックスについて 山下高明氏 四、東南アジア留學生のための募金に協力。 五、賛助会員二名を得た。六、横浜入港の船で来日されたオランダの協会々員を歓迎案内した。 御申込先 東京都新宿区角筈二七四 第一大正ビル グレートブックス・プログラマ出版社 担当 北 沢 実 夫 (三四三)一〇八四六

廣島支部 六月 廣島支部 七月 愛知支部 七月 安藤 昭代 お茶の水女大 森川みどり 東京女子医大 河合 憲子 日本女子大 佐伯 洋子 早稲田大学 大橋 薫 学習院大学 静岡支部 七月 益田 喜久 静岡女子大 後藤 陽子 仙台支部 七月 池田起巳子 津田塾大 群馬支部 八月 水沢 澄子 日本女子大 秋田支部 八月 小玉とし子 (京都支部より次号へ)

西宮支部 二日の旅行 招待交歓会 五、新年宴会 六、新年宴会 七、国内奨学金伝達式 八、新年宴会 九、国内奨学金伝達式 十、新年宴会 十一、国内奨学金伝達式 十二、国内奨学金伝達式 十三、国内奨学金伝達式 十四、国内奨学金伝達式 十五、国内奨学金伝達式 十六、国内奨学金伝達式 十七、国内奨学金伝達式 十八、国内奨学金伝達式 十九、国内奨学金伝達式 二十、国内奨学金伝達式

昭和三十九年度 事業報告

63号より続き

大阪支部 木下 薫 総会一回、委員会十二回 企画その他に関する世論調査実施(返事百三名) 一、東南アジア研究 二、東南アジアをめぐる世界の動き 三、東南アジア 四、東南アジア留學生との交歓会 五、東南アジア留學生との生活 六、東南アジア留學生との生活 七、東南アジア留學生との生活 八、東南アジア留學生との生活 九、東南アジア留學生との生活 十、東南アジア留學生との生活 十一、東南アジア留學生との生活 十二、東南アジア留學生との生活 十三、東南アジア留學生との生活 十四、東南アジア留學生との生活 十五、東南アジア留學生との生活 十六、東南アジア留學生との生活 十七、東南アジア留學生との生活 十八、東南アジア留學生との生活 十九、東南アジア留學生との生活 二十、東南アジア留學生との生活

神戸支部 (神戸支部便りをもとに作成) 一、支部総会、月例会、開 二、講演会開催 三、「婦人と国際問題」 神戸大学教授 尾上正男 氏 一、婦人有権者連盟と共催 二、「中国の旅から」 毎日放送 海野光雄氏 三、「フィリッピンの家庭生活について」 ヴィンセント・フィリップ 氏 四、例会に於て次のような見学、お話をきく会を催した。 一、「二宮尊徳」について 御子様二宮尊徳のお話 二、ツタンカーメン展を見学、保母の有資格者が不足しており、又県内にはその養成機関もない有様です。 三、当支部では幼児教育の関係者及び新潟県女子教育振興協議会と共に県当局に「新潟県立新潟女子短期大学に幼児教育科を新設してはかるよう」運動を進めてきた。昭和四十一年度より定員四十名で幼児教育科が発足することになった。 二、青少年問題関係 〇ガールスカウト運動に参加 青少年の健全育成をめざしガールスカウト運動に参加し、四十一年度本市に於てガールスカウト日本連盟主催の「地区開拓女子講習会」を持つようはかり、県下各地より多数の参加者を

より本市の会員宛に北方からの留学生を歓迎し、種々便宜を計る旨を述べた連絡があった。四十一年正月米國船ルズベルト号が博多港に寄港した際、同船に託して、同支部より同支部長宛に同市女子大学四校の規則書と支部の研究プランが届けられたので会員に展示了。 二、国内奨学金伝達式を博多多摩国ホテルで行った。 三、東南アジア留學生のための募金に協力。 長崎支部 中島はる 一、県内女子高校生二名に奨学金を贈呈した。(各名一万円宛) 二、長崎大学医学部羽藤信子氏を国内奨學生に推薦、奨学金を授与された。 三、東南アジア留學生のための募金に協力した。 四、本部婦人の地位委員会に依頼により家庭婦人の生活調査に協力した。 五、講演会開催(長崎大学) 教授 前川忠良氏 一、「東南アジアを旅行して」 二、当支部会員酒井ノブ子氏の「ソノ連視察談」をきく会を催した。 三、新潟市内の高等学校生十五名(定時制四名)計十八名に賞を贈った。 四、副知事、県市教育委員をとりもたらうよう申入れをし、これ婦人の民間指導の詞をいただき県内の新刊の詞をいただき、奨学金の授与に協力した。 五、奨学金の授与に協力した。 六、奨学金の授与に協力した。 七、奨学金の授与に協力した。 八、奨学金の授与に協力した。 九、奨学金の授与に協力した。 十、奨学金の授与に協力した。 十一、奨学金の授与に協力した。 十二、奨学金の授与に協力した。 十三、奨学金の授与に協力した。 十四、奨学金の授与に協力した。 十五、奨学金の授与に協力した。 十六、奨学金の授与に協力した。 十七、奨学金の授与に協力した。 十八、奨学金の授与に協力した。 十九、奨学金の授与に協力した。 二十、奨学金の授与に協力した。

昭和三十九年度 事業報告

63号より続き

新潟支部 山内 孝 一、新潟県立新潟女子短期大学に幼児教育科を設置 二、幼児教育科の重要なお話 三、新潟県では幼稚園教師、保母の有資格者が不足しており、又県内にはその養成機関もない有様です。 四、当支部では幼児教育の関係者及び新潟県女子教育振興協議会と共に県当局に「新潟県立新潟女子短期大学に幼児教育科を新設してはかるよう」運動を進めてきた。昭和四十一年度より定員四十名で幼児教育科が発足することになった。 二、青少年問題関係 〇ガールスカウト運動に参加 青少年の健全育成をめざしガールスカウト運動に参加し、四十一年度本市に於てガールスカウト日本連盟主催の「地区開拓女子講習会」を持つようはかり、県下各地より多数の参加者を

より本市の会員宛に北方からの留学生を歓迎し、種々便宜を計る旨を述べた連絡があった。四十一年正月米國船ルズベルト号が博多港に寄港した際、同船に託して、同支部より同支部長宛に同市女子大学四校の規則書と支部の研究プランが届けられたので会員に展示了。 二、国内奨学金伝達式を博多多摩国ホテルで行った。 三、東南アジア留學生のための募金に協力。 長崎支部 中島はる 一、県内女子高校生二名に奨学金を贈呈した。(各名一万円宛) 二、長崎大学医学部羽藤信子氏を国内奨學生に推薦、奨学金を授与された。 三、東南アジア留學生のための募金に協力した。 四、本部婦人の地位委員会に依頼により家庭婦人の生活調査に協力した。 五、講演会開催(長崎大学) 教授 前川忠良氏 一、「東南アジアを旅行して」 二、当支部会員酒井ノブ子氏の「ソノ連視察談」をきく会を催した。 三、新潟市内の高等学校生十五名(定時制四名)計十八名に賞を贈った。 四、副知事、県市教育委員をとりもたらうよう申入れをし、これ婦人の民間指導の詞をいただき県内の新刊の詞をいただき、奨学金の授与に協力した。 五、奨学金の授与に協力した。 六、奨学金の授与に協力した。 七、奨学金の授与に協力した。 八、奨学金の授与に協力した。 九、奨学金の授与に協力した。 十、奨学金の授与に協力した。 十一、奨学金の授与に協力した。 十二、奨学金の授与に協力した。 十三、奨学金の授与に協力した。 十四、奨学金の授与に協力した。 十五、奨学金の授与に協力した。 十六、奨学金の授与に協力した。 十七、奨学金の授与に協力した。 十八、奨学金の授与に協力した。 十九、奨学金の授与に協力した。 二十、奨学金の授与に協力した。

より本市の会員宛に北方からの留学生を歓迎し、種々便宜を計る旨を述べた連絡があった。四十一年正月米國船ルズベルト号が博多港に寄港した際、同船に託して、同支部より同支部長宛に同市女子大学四校の規則書と支部の研究プランが届けられたので会員に展示了。 二、国内奨学金伝達式を博多多摩国ホテルで行った。 三、東南アジア留學生のための募金に協力。 長崎支部 中島はる 一、県内女子高校生二名に奨学金を贈呈した。(各名一万円宛) 二、長崎大学医学部羽藤信子氏を国内奨學生に推薦、奨学金を授与された。 三、東南アジア留學生のための募金に協力した。 四、本部婦人の地位委員会に依頼により家庭婦人の生活調査に協力した。 五、講演会開催(長崎大学) 教授 前川忠良氏 一、「東南アジアを旅行して」 二、当支部会員酒井ノブ子氏の「ソノ連視察談」をきく会を催した。 三、新潟市内の高等学校生十五名(定時制四名)計十八名に賞を贈った。 四、副知事、県市教育委員をとりもたらうよう申入れをし、これ婦人の民間指導の詞をいただき県内の新刊の詞をいただき、奨学金の授与に協力した。 五、奨学金の授与に協力した。 六、奨学金の授与に協力した。 七、奨学金の授与に協力した。 八、奨学金の授与に協力した。 九、奨学金の授与に協力した。 十、奨学金の授与に協力した。 十一、奨学金の授与に協力した。 十二、奨学金の授与に協力した。 十三、奨学金の授与に協力した。 十四、奨学金の授与に協力した。 十五、奨学金の授与に協力した。 十六、奨学金の授与に協力した。 十七、奨学金の授与に協力した。 十八、奨学金の授与に協力した。 十九、奨学金の授与に協力した。 二十、奨学金の授与に協力した。

訂正

63号、一面八段目の四十一年度\*国内奨學生選考委員を役員選考委員とする。 若林花子(委員長) 大槻高子 山西貞子 一又民子 有富光子 永峰すみ 福永サチ

訂正 63号、一面八段目の四十一年度\*国内奨學生選考委員を役員選考委員とする。 若林花子(委員長) 大槻高子 山西貞子 一又民子 有富光子 永峰すみ 福永サチ